

## Sの成分、Sの境界

塚脇 幸代

s-tsuka[at]dream.ocn.ne.jp

はじめに

各言語はそれぞれの構成要素により成り立つ。その構成要素は各言語によりさまざまである。構成要素どうしははある程度規則的な接続関係を持っている。しかし構成要素の連続だけが一つの言語を特徴付けるものではない。接続によりまとまった単位をつくる。それは名詞句であったり動詞句であったり、複合名詞であったり複合動詞であったり、機能語相当表現であったり、副詞句であったりする。これらの新しい構成要素はさらに大きなまとまった単位を構成する。すなわち単文(S)である。本稿では単文(S)の構成要素(=成分)とSをつなぐもの(=境界)について考察する。

なお、本稿に現れるSの構成要素の記号は参考文献2による。

### 1 Sの成分

まず、Sの構成要素として名詞類(N)、形容詞類(A)、動詞類(V)などの内容語を少なくとも一つ持つ、という定義が浮かぶ。しかし、副詞類(ADV)、接続詞類(CNJ)、機能語類も一つの「文」とみなすべき場合があることを認めなければならない。以下のような会話が成立しうる。

1)

Taro: もしや…

Jiro: ないよ

Taro: だってさ

hanako: でしょうね

単独で一つの「文」を構成しうる副詞や接続詞、機能語類は、(1)文頭に位置することができる<sup>1</sup>、(2)本来文頭に位置することができなくとも、指示副詞を添えることによって文頭に位置することができるもの、のいずれかに限られる。実際には機能語の多くが会話においては文頭にくることを許されている。その意味では、機能語に付属語という呼び名を与えるのはふさわしくない。

上記のような「文」を認める一方、単文(S)なる単位を設けることの意義を見出さなければならない。ここでは仮に「名詞類(N)、動詞類(V)、形容詞類(ADJ)のいずれか一つを述部に持つまとまり」を単文(S)と呼ぶ。

2)a. 太郎が猫を飼う(V 述部)

2)b. 太郎の猫はかわいい(A 述部)

2)c. チビはトキオの猫だ(N 述部)

<sup>1</sup> 文頭とは見た目どおりの文の初め(左端)のことであり、何かが省略されていたり、別の文の内容を受けているとみなしたりはしない。それは意味の解釈にかかわることであって、本稿の趣旨の範囲ではない

述部中心に S を捉えるとき、格構造を使って説明されることがある。問題となるのは、述部がそれぞれ異なる格構造を持ち、一つの述部が複数の格パターンを持ち、その格パターンにふさわしいさまざまな格要素がある。だが、S は格要素のみで成り立つものではない。3)の数量表現や 4)の数量副詞を格パターンで捉えることは難しい。

- 3)a. 太郎が 3匹の猫を飼っている
  - 3)b. 太郎が猫を 3匹飼っている
  - 3)c. 太郎が猫 3匹を飼っている
  - 3)d. 太郎が 3匹猫を飼っている
  - 3)e. 太郎が猫を飼っている
  - 3)f. 太郎が 3匹飼っている
- 
- 4)a 太郎が 3匹の捨て猫すべてを引き受けた
  - 4)b 太郎が捨て猫を一部引き受けた

さらに文頭に来る副詞の中には S に含まれないものがある。

- 5)a \* 万一太郎が捨て猫を引き受けた
- 5)b \* 太郎が 万一捨て猫を引き受けた
- 5)c \* 太郎が捨て猫を 万一引き受けた
- 5)d やはり太郎が捨て猫を引き受けた
- 5)e 太郎が やはり捨て猫を引き受けた
- 5)f ? 太郎が捨て猫を やはり引き受けた
- 5)g ? 快く太郎が捨て猫を引き受けた
- 5)h 太郎が 快く捨て猫を引き受けた
- 5)i 太郎が捨て猫を 快く引き受けた

5)a-5)c の「万一」は「なら」などの仮定の接続助詞と呼応する。接続助詞は S をつなぐ要素であるから、「万一」も S の外側にあると考えられる。5)d-5)f の「やはり」は話者の判断を表す副詞であるが、5)f の位置(述部に近い)ではやや語順に不自然さがある。一方 5)g-5)i の「快く」は文頭でやや不自然さがある。それでも「万一」に比べれば、容認される可能性はある。「やはり」と「快く」が S の要素であるかどうかは、6)で確認できる

- 6)a やはり太郎が捨て猫を引き受けたことが隣近所に知れ渡った
- 6)b 太郎が やはり捨て猫を引き受けたことが隣近所に知れ渡った
- 6)c 太郎が捨て猫を やはり引き受けたことが隣近所に知れ渡った
- 6)d 快く太郎が捨て猫を引き受けたことが隣近所に知れ渡った
- 6)e 快く太郎が捨て猫を引き受けたことを隣近所が了解した
- 6)f 太郎が捨て猫を 快く引き受けたことが隣近所に知れ渡った

6)a の「やはり」が「知れ渡った」にかかる可能性があるのに対し、6)d-g の「快く」は「引き受けた」「了解した」にかかる解釈をするには努力が必要である。「やはり」が「快く」のような様態副詞にくらべて S の範囲

に入りづらいことを示している。

局所的な並列・列挙構造は S の一部となる。

花子は猿、鳥、犬を飼っている(N の並列)

次郎は小さい白いにわとりを飼っている(A の並列)

太郎は走ったり泳いだりする(V の並列)

## II S の境界

単文(S)は単独で「文」となることもできるが、それでは S はどのようにして他の S とかかわりを持つのか。

2つの S をそれぞれ S1 と S2 とすると、S1 と S2 の境界に位置することができる要素には以下のようなものがある。

a) 文接続詞(CNJS)

太郎が犬を飼った。そして、犬小屋を作った

b) 文副詞(ADV)

太郎が犬を飼った。そのとき、犬小屋を作った

c) 補文標識(COMP)

太郎が犬小屋を作ったことを次郎は知っている

d) 終助詞(JE)

太郎は犬小屋を作ったよね、犬を飼ったのかな

e) 接続助詞(CNJS)

太郎が犬を飼ったとき、犬小屋を作った

太郎は猫を飼ってから金魚掬いをしなくなった

f) 句読点(PUNC)

太郎が犬を飼った。、犬小屋を作った

g) 括弧

太郎は「犬小屋を作った」と隣近所に言いふらした

構造上の関係は文頭から文末へ向かっての表出においては大別すると、連続と保留の2つがある。

このうち連続は S1 と S2 が対等に表出される。句読点で区切る方法、また接続助詞や連用中止でつなぐパターンがこれに当たる。

[S1 太郎は新しい自転車を買った]。[S2 太郎は花子とサイクリングに出かけた]

[S1 太郎は新しい自転車を買って]、[S2 花子とサイクリングに出かけた]

[S1 太郎は新しい自転車を買って] [S2 花子とサイクリングに出かけた]

保留は S1 をいったん中止し、文末までに S2 を表出する。これにはいくつかの方法がある。一番わかりやすい手法は挿入である。

[S1 太郎が、[S2 最近新しい自転車を買ったのだ]が、花子とサイクリングに出かけた]

次に引用がある。これは S2 の右端の形態を自由にとることができる。S2 の右端が終助詞や間投詞、感動詞、擬態・擬音表現であつてもかまわない。

[S1 太郎は花子に[S2 新しい自転車を買ったばかりなんだよ]と言った]

[S1 三毛猫が花子に[S2 にゃあ]と鳴いた]

補文標識で S2 を受ける方法もある。

[S1 [S2 太郎が最近新しい自転車を買った]ことを花子は知っている]

[S1 [S2 太郎が新しい自転車をかう]よう花子は画策した]

最後に埋め込みがある。

太郎は新しい自転車をほしがるとある傾向がある

太郎はサイクリングをする趣味がある

[S1 花子は[S2 新しい自転車を買った]太郎とサイクリングに出かけた]

このような S1 と S2 の関係は原則として繰り返して使用することが可能であり、長く複雑な「文」を生成することもできる。

太郎が猫を飼ったのはね、犬が嫌いだからと、次郎は思っているのよ、と花子が言ったとき、私は昨日植えたばかりのチューリップの球根が動物に掘り返されているのではないだろうかと気になって、適当に相槌をうっていた。

おわりに

～文の区切りと統語力～

言語処理で「文の区切り」とみなされる改行や句読点は、正書法に照らすと妥当な区切りであるといえるが、それは“決まりごと”の一種であって、実際に使われる際にはある程度の幅がある。すなわち必ずしも期待される場所に期待された区切りがあらわれるとは限らない。それでは、何を以って「文」の単位を知らばよいのかということになる。それは、一つには格構造であるかもしれないし、また接続詞や文副詞かもしれないし、あるいは間であったり、イントネーションであったり、陳述のありようであったりするのかもしれない。ともかくも一つの言語は、文字や音声の羅列にとどまらず、統語構造を持っている。言語を運用するとき、その言語の統語構造に沿うように自然に表出していく、それは統語力とでもいうべきものである。日本語には日本語の、英語には英語の統語構造があるが、日本語にも英語にも統語力はある。

留意すべきは、統語構造は、意味構造とイコールではないということである。統語力により実現された整った統語構造が、要求される意味を過不足なく表しているとは限らない。構造(形)は意味とは切り離されている。これまで意識的に取り上げてこなかった意味の領域に、言及する機会があればと願う。

<参考文献>

1. 塚脇幸代. 日本語の助動詞類と文構造, 言語処理学会第15回年次大会. P3-9. 2009年3月.
2. 塚脇幸代. 日本語の機能語の範疇と境界, 言語処理学会第14回年次大会. PB2-8. 2008年3月.
3. 塚脇幸代. 対訳コーパスにおける品詞タグ～名詞属性を持つ日本語品詞～, 言語処理学会第13回年次大会. PD1-2. 2007年3月.
4. 塚脇幸代. 対訳コーパスのためのタグ体系, 言語処理学会第11回年次大会. P3-1. 2005年3月.